

実務者のための電子納品セミナー

制度や対応策など理解

県建設業協会曾於支部

県建設業協会曾於支部(田中裕之支部長)は24日、曾於市の曾於建設会館で実務者のための「電子納品セミナー」を開き、制度や対応のポイントを学んだほか、現場の負担を軽減する新しい電子納品の対応策の提案もあった。

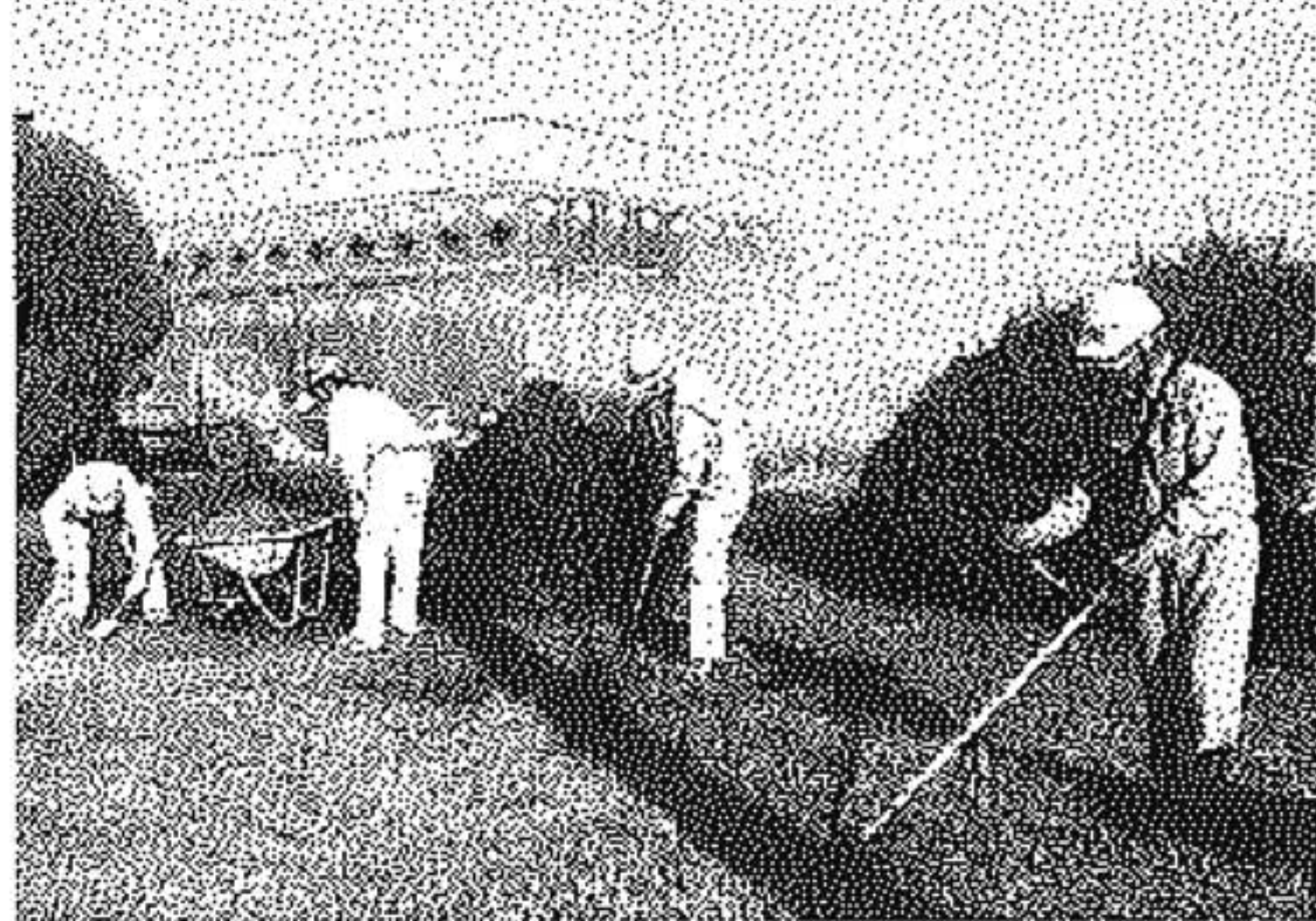
講師は(株)現場サポートが担当。同日は、約40人が参加して21年度から本格導入される制度を熱心に学んだほか、現場の負担を軽減する新しい電子納品の対応策の提案もあった。

また、電子納品の取り組みやこれまでの体験談を生かした事前協議事項、対応のポイント、電子成果品のデータチェックについて説明があり、この中で、従来の電子納品システムを覆すインターネットを活用した新システム(ASPサービス)の講習もあった。参加者はメモを取るなど、真剣に聴講した。

水源池を清掃

施設の景観保全

組合員らは水神祭に先立って、早朝から出水地域の同水源池のほか、高尾野地域の長尾水源池ほか1カ所、野田地域の青木水源池ほか2カ所の草刈りや樹木剪定などのボランティア清掃作業を行った。写真。



組合員らは水神祭に先立って、早朝から出水地域の同水源池のほか、高尾野地域の長尾水源池ほか1カ所、野田地域の青木水源池ほか2カ所の草刈りや樹木剪定などのボランティア清掃作業を行った。写真。

自然の恩恵に感謝

出水管工事協組が水神祭

出水管工事協組(樋口周一理事長)は20日、出水市の小原水源池で「水神祭」を行い、組合員や同市職員らが参加して大自然の恩恵に感謝した。同水源池は出水市上水道事業発祥の地。「水神祭」は昭和35年12月20日の通水以来、毎年この日に行われて

組合が引き継いで実施している。神事では、祝詞奏上や清め祓いの儀などに続き、樋口理事長、今村良一水道部長、前田裕司水道課長らが神前に向かって玉玉くしを捧げ手を合わせる樋口理事長ら。出水市の小原水源池で

また、鶴丸会館に場所を移して行われた直会では、樋口理事長と今村部長が「自然の恩恵に感謝したい」「これからも安全な水を供給していきたい」などと挨拶し、清浄で豊富な水の恵みに感謝しながら参加者全員で親睦を深めた。

駅舎や周辺を清掃
無人駅を防犯拠点に

隈之城愛好会



薩摩川内市の地域まちづくりボランティア団体・隈之城愛好会(会長・

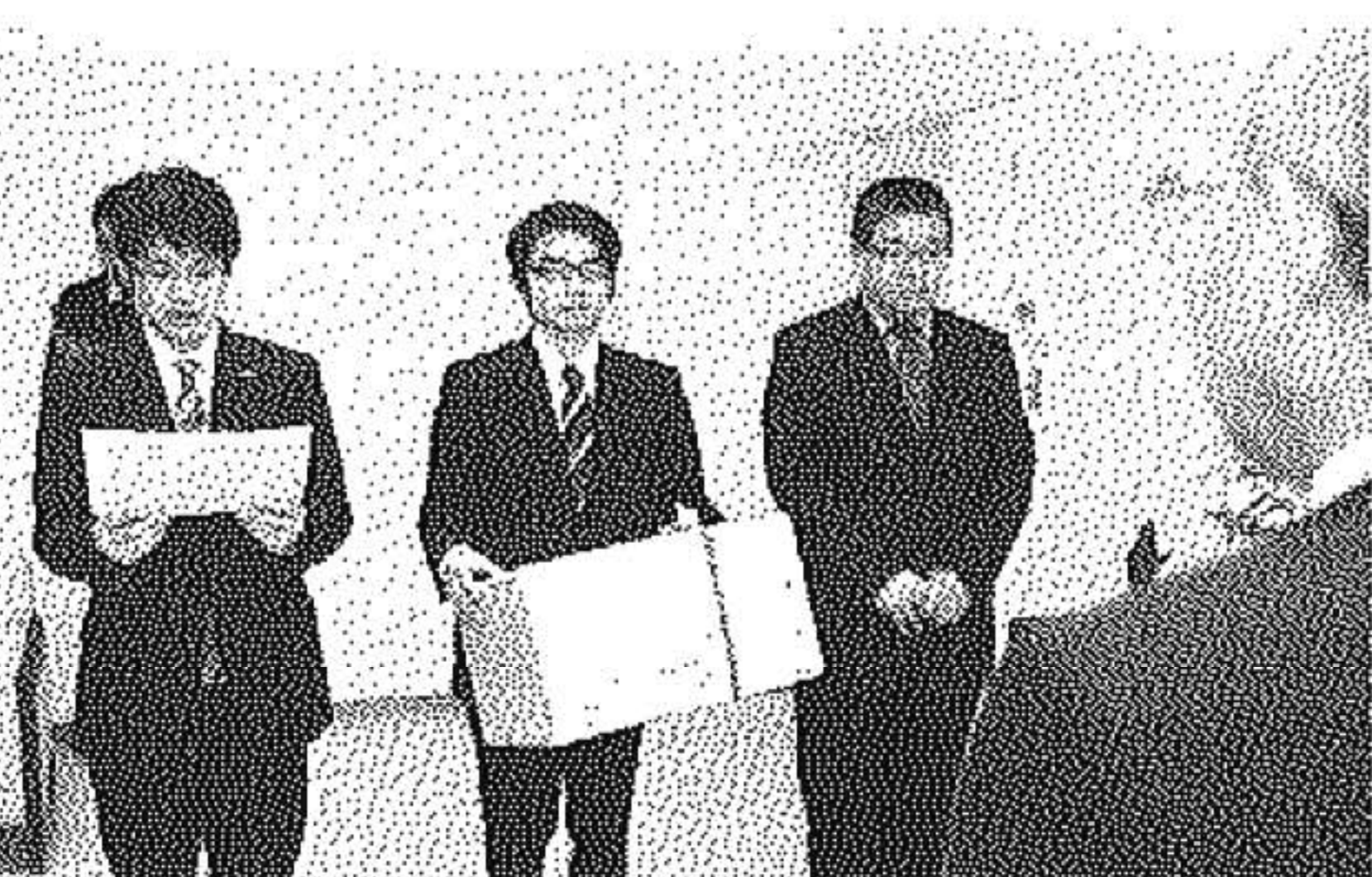
安全確保と地域防犯に寄与するため隈之城地区防犯パトロール「地域まもり隊」(新盛弘文隊長)を結成。

ことから、日常巡回するなどパトロールを強化していた。

スやいす、駅名板などをきれいにふいたり、床や地面にこびりついたガムをヘラやブラシで洗い流したほか、駅舎周辺の落ち葉掃除や空き缶の分別回収などを積極的に行った。

地域貢献活動

～ 鹿児島電気工業協組青年部会 ～
温かい気持ちに敬意



鹿児島電気工業協組青年部会(春山建部長)は24日、鹿児島市社会福祉協議会(赤崎義則会長)を訪れ、今年で14回目となるボランティア活動の一環として、「グラスファイバー白杖」を寄贈した=写真=。

同部会は、これまで車いすや妊婦擬似体験教材などをクリスマスプレゼントとして寄贈を続けている。最初に、春山部長(親栄電設(株))が「世の中、不況の波が押し寄せてくる中、今年も寄贈できることを光栄に思います」と挨拶し、目録を贈呈した。

これを受け赤崎会長は「福祉の心に根差し毎年、定期的に寄贈していただき感謝しています。その思いと温かい気持ちに敬意を表し

ます。これまで、車いすなどをいただき、とても役立っています。閉塞感が漂う世の中でこそ、人を思いやる気持ちを持ち続け、今後も社会貢献を続けてください」と感謝の言葉を述べた。

～ 桜島砂防安全対策協 ～
地域社会に貢献



桜島砂防出張所地区工事安全対策連絡協議会(会長・松久保武弘大隅河川国道事務所桜島砂防出張所長)は17日、地域社会に少しでも貢献しようと、会員ら60人が参加して昨年に続き2回目の献血を行った=写真=。

同日は、鹿児島市の桜島出張所駐車場を開放。会員企業の従業員

らが業務の合間をぬって会場を次々と訪れ、県赤十字血液センターの移動採血車に乗り込み、献血に協力していた。

松久保会長は「砂防工事の従事者として少しでも貢献できたらとの思いで取り組んだ。安定的な輸血用血液の備蓄が難しいと聞いている。今後も続けていきたい」と話していた。

参加業者は次の通り。
鹿大丸 村山組 植村組 野添土木 丸福建設 坂本建設 有電社 上東建設

～ 森建設 ～
正月前に道路清掃

(株)森建設(森義久社長、鹿屋市)は23日、毎年恒例になっている正月前の道路清掃奉仕作業を実施した。関連会社や社員ら約45人が参加し=写真=、輝北町を縦断する国道504号と同線にアクセスする県道で、空き缶などのごみ拾いを実施し、地域に貢献した。

本社での出発式では、参加者を

前に森社長が「帰省される人たちをきれいな輝北路で迎えよう。交通車両やけがに注意して頑張ってもらいたい」と激励。注意事項などの説明を受けた後、参加者はごみ袋を持ち元気良く出発した。作業範



囲は、霧島市福山町境から大隅湖までの国道504号や県道71、72、63号の総延長約40km。

同社では、9月の献血ボランティア等とともに、この正月前のボランティア作業も毎年実施しており、地域住民や関係者から感謝されている。

情報はこちらへ

本紙では、企業や団体等の地域貢献活動を掲載しています。作業風景の写真や作業内容等を記入し報道編集部まで情報をお寄せください。新聞掲載は無料です。
E-mail:hensyu@po.kc-news.co.jp